

開催  
レポート

第3回

ささやかだけど

“キラッ”と輝く

地域の取り組み

令和2年9月26日開催  
@庄原市ふれあいセンター  
コパリホール



生活支援体制整備事業は、介護保険制度に位置づけられた、福祉の地域づくりを進める事業で、庄原市では平成28年度から実施しています。

実践報告会は、この事業について、各地域で取り組まれている活動を紹介し合うことで、それぞれの活動の大切さを再確認し、新たな活動につながる場となることをめざし、平成30年度に初めて実施し、この度3度目の開催となりました。

### プログラム

- 13:30 開会・あいさつ・オリエンテーション
- 13:35 導入 「会の趣旨・生活支援体制整備事業について」
- 13:45 事例報告① 高野地域協議体 「なんずかんずつながる会」
- 14:18 事例報告② 庄原自治振興区協議体 「福祉団体連携会議」
- 14:51 事例報告③ 帝釈自治振興区協議体 「社会福祉部会」
- 15:40 閉会

### 実践報告会のコンセプト

#### 「生活感」「手づくり感」「地元感」

この3つが、実践報告会のキーワードです。

これらには、「すごいことでなくて良いから、身近なところでちょっと輝いている取り組みの積み重ねを大事にしよう」「派手じゃないけれど良いものをつくっていこう」という思いがこめられており、第1回から続くコンセプトになっています。

- 庄原市内の事例にこだわり、市内の地域同士がお互いに共感できる会にする。
- 先進的で完成された事例ではなく、取り組みの途上でも良いので、“キラッ”と輝くような大切なポイントが見える事例を取り上げる。
- 報告を聞いた人たちが、「自分たちにもできる」と前向きな気持ちになれる。

“普段の暮らしの中で、地域や身近な人のことを想う気持ちが少しずつ形になってきている、そんな取り組みの報告を聴くことで、それぞれの地域の取り組みが、また一歩前進する”、そんな会を目指して開催しました。



今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、1自治振興区あたり2人の定員を設け、事前申込制としました。当日も、席の間隔を広げ、マスク着用をお願いし、スケジュールも例年より短くするなどの対策を取りました。

# 実践報告の進行役

一昨年、昨年に続いて、地域福祉に精通したこのお二人に進行をお願いしました。

1つの発表ごとに、質疑や意見交換を行う時間を設け、全体で事例を深めたり、お互いにやる気や元気が得られたりするような時間にしていきました。

## ファシリテーター

奥田 久美子 さん



庄原市社会福祉協議会  
生活支援  
コーディネーター  
(第2層統括)

メインの進行役です！

## サポーター

上田 正之 さん



庄原市高齢者福祉課  
生活支援  
コーディネーター  
(第1層)

経験豊富な知恵袋です！

～ここからは当日話された内容の紹介です～

## 導入

### 『この事業の背景、目的について』

説明者 生活支援コーディネーター 上田 正之 さん

- ・全国的に、加速度的な少子高齢・人口減少社会化が進行。  
「生活上の課題や不安にどう向き合えばいいのかわからない」と思いがちだが、重要なのは自分の生き方。
- ・**自分の行動が活かされる、役割があり誰かの役に立つ。** そういう自助・互助を進めていきたい。
- ・住民による支え合い活動の意義は、「**ここで暮らしてもいいんだな**」と思える雰囲気を作ること。  
**これは地域でなければできないこと。自分が支える地域は、自分を支えてくれる地域でもある。**

### 生活支援体制整備事業とは

**住民参画**による“暮らしやすい地域づくり活動”を進める事業。

### この事業で出てくる用語

**協議体**・話し合い・活動の場。

地域課題を話し合い、地域だからできることを形にする。

**生活支援コーディネーター**・・・**つなぎ役**。

話し合いの場を作ったり、情報提供したり、地域の資源探しを手伝ったり、ニーズ(困り事)と応援者をつないだりする。

生活支援体制整備事業は、主に自助・互助の部分を担う事業です！

### ★ “地域包括ケア”を表す植木鉢図★



「<地域包括ケア研究会>地域包括ケアシステムと地域マネジメント」掲載図に、庄原市で花とじょうろを加えたもの

### ★新型コロナウイルス感染症対策に関して

- ・田舎は密な環境が少なく、感染リスクも少ない。田舎の良さを意識する機会にもなっている。
- ・「**出るな、集まるな、話をするな、一緒にやるな**」と言われるが、**活動を控えると、認知症や身体・精神の状態が悪化する。**
- ・感染リスクが高い都市部と一緒にやる方がいいのか、考える必要がある。対策が不要ということではないが、**田舎の良さ、庄原の良さを失わないように、皆で工夫をしながら、地域でつながりを保っていこう。**

# 報告 ①

## 高野地域協議体「なんずかんずつながる会」

『安心して暮らし続けることができる高野のまちづくり  
～ホップ！ステップ！ジャンプに向けて！』

副リーダー（下高自治振興区事務局長） 草谷 洋 さん  
+ 生活支援コーディネーター 三川 みゆき さん

### 発表要旨

○なんずかんずつながる会の概要

- ・「**なんずかんず**」は、**いろいろな、多彩な**という意味。  
**たくさんの意見を出し合い、つながって活動しよう**という思いで名付けた。**高野の長所を活かして困りごとや課題を解決する。**
- ・会費 100 円でお茶とお菓子を食べながら、ワイワイガヤガヤ、皆で解決を目指して話し合う。



○これまでの活動の流れ

H29 年度 「なんずかんずつながる会」発足、「なんずかんず便利帳」作成・各戸配付  
便利帳発行につながった思い

- 生活上のちょっとした困りごとを、どこに頼めばいいんだろう？
- 配達や訪問をしてくれるお店など、**地元でも意外と知られていない情報**がある。
- できるだけ地元の資源を活用して、我が家で暮らし続けてもらいたい。**

H30 年度 「なんずかんず便利帳 第2版」作成・各戸配付

**住民の声を受けて、項目を追加して改訂した。**

R 元年度 「防災マニュアル 総合編」「防災マニュアル 大雪編」作成・各戸配付

- ・総合編は、日頃の取組、情報の収集、避難行動の3点についてまとめた。
- ・大雪編は、**高野ならではの雪による事故を防ぎたいとの思いで作成**し、地域のつながり、室内の備え室外の備えについてまとめた。



○ホップ！ステップ！ジャンプに向けて！

今一度、**地域包括ケアや生活支援体制整備事業について勉強会**を実施した。  
**地域の困りごとを分類**し、ちょっとした助け合いづくりを考えていくことに。  
ホップ：会の発足、ステップ：便利帳・防災マニュアル作成から、  
次のジャンプでは、**人つながりを基にした地域課題の解決に取り組む。**



**皆が「この町に住んで良かった」と思えるよう、小さい事、できる事から形にしていく。**

○生活支援コーディネーターから

- ・「**なんずかんず**」は馴染みがあり、共感できる言葉。「なんずかんず困った」「なんずかんずえかった」「なんずかんずしていこうや」など、色々な思いを込めて言い表せる。
- ・最初は何をどう進めればいいのか分からなかった。リーダー、副リーダーを決めてから、**会の進行方法や思いなど相談**できるようになり、スムーズな運営ができるようになった。**皆が自分事として捉え、ざっくばらんに意見交換**できるようになってきた。
- ・**会の活動を住民に知ってもらうため、自治振興区連絡協議会の広報に毎月記事掲載**をしてもらうことになった。「住みよい高野」を目指し、隅々まで声が届くネットワークにしたい。

○質疑

Q：リーダーはスムーズに決まったのか？

A：自治振興区が大きな事業を抱えている状況だったので、民生委員の会長がリーダー、自治振興区が補佐という形になった。立候補もあって、スムーズに決まった。

Q：草谷さんは、副リーダーになって意識の変化があったか？

A：会議の進め方などを具体的に考えることが増えた。役が人をつくる。自治振興区でも住民の意見を聞き、地域づくりを進める立場であり、いい機会をいただいたと思っている。

Q：共助の視点からは、地域の中でどのように取り組まれているか？

A：便利帳、防災マニュアルは各戸配付後、自治会やサロンでも説明し、役立ったという声も返してもらっている。自治振興区の避難訓練では防災マニュアルを活用した。更に進めていきたいが、それが次の「ジャンプ」の段階の取り組みになる。

### 会場との意見交換



# 庄原自治振興区協議体「福祉団体連携会議」

報告  
②

『より安全で安心して暮らせる協働のまちづくりを目指して！！  
～庄原自治振興区福祉団体連携会議の取り組み～』

庄原自治振興区事務局長 滝口 博章 さん

+ 生活支援コーディネーター 貝崎 文昭 さん

## 発表要旨

### ○庄原自治振興区と福祉団体連携会議の概要

- ・中心市街地とその周辺の農村部、33自治会で構成されている。  
全体の高齢化率は低くても、自治会によっては60%を超えている。
- ・福祉団体連携会議は、平成23年に自治振興区が主体となって組織し、「高齢者等がより安全で安心して暮らせる地域づくり」に取り組んできた。



### ○「さりげない見守り活動」の取組

地域の課題… **近隣のつながりの弱まり → 迷惑をかけたくないという遠慮 → 閉じこもり、更なる関係の希薄化 → 心身の病気**

悪循環

**地元自治会の中で、気遣い、声かけ、無理のないところでの支援 → 「さりげない見守り活動」自治会長の責任ではなく、自治会の中で（みんなの事として）取り組む**ようにしてきた。

見守り関連のその他の取組 H24年度～ いのちのバトンの全世帯設置

H29年度～ 見守りネットワーク対応マニュアル

…さりげない見守りから、何かあった時どこに連絡するか分かるようにした。

- ・見守り活動を一層進めるため、**自治会単位で自治会長、民生委員、ひとり暮らし高齢者等巡回相談員による定期的な情報交換を推進**している。3自治会で定着。全域へ拡大・定期化したい。
- ・この連携は、**災害時の早めの避難行動にもつながる**ものと思っている。



### ○自主防災の取組・避難所運営マニュアル

H30年度 緊急時対応マニュアル… 災害発生時の避難・連絡体制等の情報

R元年度 全自治会で自主防災会ができ、自治会単位の防災マップ作製に着手  
避難所運営マニュアル… 開設・運営の基本的な考え方を整理

### ○今後の取組に向けて

**すぐに成果が出ない地道な活動**である。33自治会あり、状況もそれぞれ違うので、自治会によってはすぐに進まないこともあるが、**「安心安全な地域づくり」に向け継続して取り組んでいく。**

### ○生活支援コーディネーターから

- ・今春から担当となり、新型コロナの影響もあり、どうすればいいかわからないスタートだった。まずは取組状況や思いを伺うところから始めた。
- ・自主防災の取組で、**現状を伺いながら、街を歩きながら、世帯の実態やご近所のつながりの把握を進める中で、局長の言う「何度も顔を合わせる→気に掛け合う→見守り・支え合い」という積み重ねの流れを実感した。**
- ・次の動きでは、集会所の無い自治会の方と新たな集まり場の立ち上げを進めたいと思っている。

## 会場との意見交換

### ○質疑

Q：自治会の中で取組が進んでいないところには、何か問題があるのか？

A：33自治会、1つ1つ実態が違うということ。世帯数も20～150と幅があり、自治会長が高齢なところ、集まる集会所が無いところもある。無理は言えないので、コツコツと取り組んでいく。

Q：局長の思い、自治振興区の思いの強さはどこから来るのか？

A：関係者が1つに寄って、取組のベースを決めて進めている。昔からやってきたこと。

Q：いのちのバトンについて、自治会に加入していない人も対象にしているのは何故か？

A：取組のベースは自治会だが、街中はアパートが多く加入が伸びにくい中で、加入してなくても心配な方は沢山いる。また、民生委員や巡回相談員は加入していない方も対象にしており、三者連携を進めてきた流れによる部分もある。



# 帝釈自治振興区協議体「社会福祉部会」

## 報告

③

### 『ここ(帝釈)で安心して暮らす

～帝釈版：地域包括ケアシステムの実現に向けて～』

帝釈自治振興区会長 表 良則 さん

+ 帝釈自治振興区事務局員 中谷 浩二 さん

+ 生活支援コーディネーター 半瀬 美恵子 さん

## 発表要旨

### ○地域包括ケアに対して考えてきたこと

- ・帝釈は高齢化率 58.4%、3人に1人が75歳以上で、「地域包括ケア」を国が提唱した頃から大事なテーマだと思ってきた。
- ・国が言う24時間365日医療・介護サービスを受けられる状態は現実には難しいと思いつつも、サービスを充実させる必要があると考え、「行政の力が無いとできない」と言ってきた。



### ○考え方の転換

昨年度、市の研修会で発言した際に、上田生活支援コーディネーターに声をかけてもらい、話をする中で、「限られた地域資源の中でいかにできるか」と考えるようになった。

### ○目指し始めた理想の形「帝釈版地域包括ケアシステム」

- ・まずはみんなで議論してみよう→社会福祉部・高齢者部合同部会
- ・疑問や不安の把握に加え、**帝釈にあるもの、地域外のものも含め、帝釈の人が使っている医療・介護・地域の支え合い活動等の資源を出し合った。**
- ・国が示した地域包括ケアの図に、出し合った資源を書き込み、「帝釈版地域包括ケアシステム」の基になる図ができた。
- ・今後、目指す「帝釈版地域包括ケア」を実現するためには、社会参加の項目が鍵。**自分の役割を持つことや生きがい対策が重要。**ここで暮らすために自分が心がけること（健康づくり、支援を上手に受けられるようになること等）を意識してもらえるように進めたい。



### ○次の取組「帝釈地域包括ケアネット連絡会」に向けて

- ・次は、「帝釈地域包括ケアネット連絡会」を実施したい。地域の困りごとに対し、自治振興区が受け手となり、地域福祉等の関係者や資源につなぐ。
- ・**住みなれた帝釈で、住民の皆さんが安心して生活できるシステム**を実現したい。それは、「実感ができるもの」でないといけぬ。「地域包括ケア」が地域の合言葉になるくらい浸透させたい。



### ○生活支援コーディネーターより

- ・関わり始めた頃、75歳以上のみ世帯に配達する「ふれあい弁当」の手伝いに声をかけてもらった。20名のスタッフの手際の良さや役割分担の様子に加え、それぞれが地域の様々な情報を持っていることを目の当たりにし、お互いを気に掛け、他人事にしていない地域だと思った。
- ・関わる中で、皆さんの「むしろ帝釈を愛しとる。じゃけえどうにかせんといけん。」という、本当に強い思いを感じている。
- ・これからも、1人でも多くの人と知り合いたい。心も身体も元気で笑顔で暮らして欲しい。その思いを胸に様々な活動のお手伝いができればと思う。関わる全ての地域に対して思っている。

### ○質疑

Q：資料に掲載の「高齢者応援隊」の組織や位置づけを教えてください。

A：自治振興区の事業として実施。毎年部会で「何か新しいものをやろう」と言っている中で、地域振興部会から話が出た。最初は草刈りから始まったが、元気な人が多く活動が少なかったため、今年度からメニューを増やした。

### ○感想・応援コメント

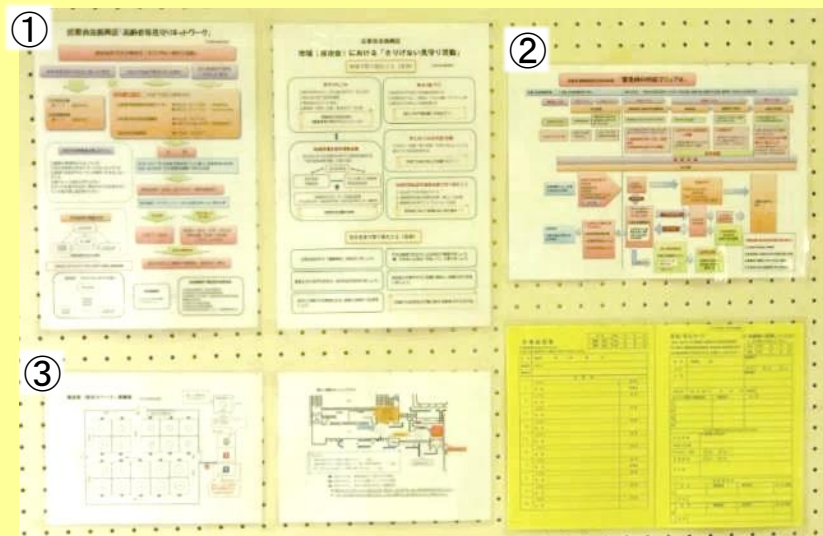
- ・国が示した「地域包括ケア」という考え方を、取組の5年目で、住民一人ひとりに向けて、自分たちの暮らし方とつなぎ合わせながら届けるところまでできている。大変感銘を受けた。

## 会場との意見交換



# 活動成果物の展示コーナー

各地域の活動の中で出来た成果物を集めて、会場内で展示しました。6地域の出展があり、地域の便利帳、活動紹介ポスターなど様々な成果物が集まりました！



## 庄原自治振興区協議体「福祉団体連携会議」

### ①『地域（自治会）における「さりげない見守り活動」マニュアル』

地域(自治会)で取り組むこと(互助)、自分自身で取り組むこと(自助)を見える化しました。

### ②『庄原自治振興区「高齢者見守りネットワーク」』

緊急時の対応マニュアルといのちのバトンです。

### ③『庄原自治振興区避難所運営マニュアル』

災害時の避難所運営の手引きです。

## 西城自治振興区・八幡自治振興区協議体

### 「西城暮らしと安心の会」

### ④『詐欺からあなたを守る相談カード』

困った時に相談できる人を、事前に考えるカードです。相談する人・される人がつながることで、支え合いの仕組み作りを目指します。



## 東城・八幡自治振興区

### ⑤『防災と見守りコラボマップ』作成から、「防災さんぽ」への取り組み』



## 八幡自治振興区協議体「福祉部会」

### ⑤『「防災と見守りコラボマップ」作成から、「防災さんぽ」への取り組み』

普段の気かけ合いや見守り合いが、いざという時に支え合いができるのではないかと「防災と見守りコラボマップ」に小地域単位で取り組んでいます。

マップを作成し、実際に歩いてみようという「防災さんぽ」に取り組んだ活動の紹介です。



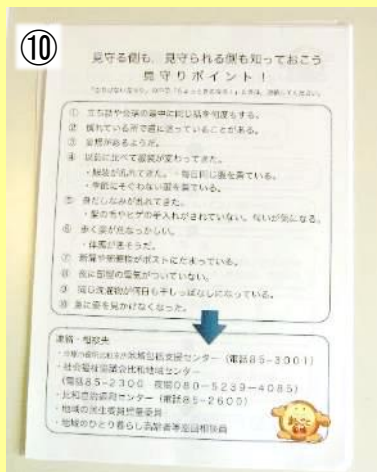
口和自治振興区協議体  
「ぬくもり会議くちわ」  
⑥『くちわ“ちょこつと”便利帳  
【第2弾】水道・電気編』  
水道・電気のちょっとした修理等、  
口和で対応いただける業者を紹介して  
います。



⑦『口和地域ふるさと応援会会員募集』  
便利帳の作成にあたり、「ふるさと応援  
会」会費より財源の一部を活用させ  
ていただいています。



上高自治振興区・下高自治振興区協議体「なんずかんずつながる会」  
⑧『たかのなんずかんず便利帳（第2版）』 ⑨『防災マニュアル（総合編・大雪対策編）』  
高野の暮らしの“ちょっとした手助け”になればの思いで作りました。安心の一助になれば嬉しいです。



比和自治振興区協議体  
「あんしんづくり会議」  
⑩『比和まるごと家族  
「見守りネットワーク」  
対応マニュアル』  
住民同士、民間業者の  
さりげない見守りの気にな  
るポイント、見守りの  
しくみ（流れ）のフロー  
チャートです。



⑪庄原市からも、「平成30年  
度実践報告会開催レポート」  
「令和元年度実践報告会開催レ  
ポート」を出展しました。

まとめ

ファシリテーター 奥田久美子 さん

サポーター

上田 正之 さん



- ・地域らしさが現れた、3地域3様の取組だった。
- ・一部の人たちだけで進めるのではなく、話し合われたことが地域の人に伝わり、一緒に取り組んでいけること。その裾野の広がり、この地域で暮らして良かったと思える地域になっていくことにつながる。

- ・住民互助を進めようという根っこさえあれば、自治振興区ごとに全て違うやり方でいい。もっと言えばその先にある、自治会なりのやり方でいい。手間暇かかるが、気長に、継続してやる事業だと思っている。
- ・「帝釈版地域包括ケア」は表さんが声を上げたところから始まった。「自分たちの地域でも考えたい」と思ったら気軽に声をかけてください。地域の住民さんに「こういうことよのお」と思ってもらえるような、その地域だからこそその取組を一緒に作れたらと思う。



## ～参加者アンケートから～

### ○実践報告を聴いて

- ・他地区の発表を聴いて、自分の地域での活動を改めて考え直す契機になった。
- ・私たちの地域も部分的には同じような取組をしていますが、個々をとりまとめコーディネーターをする人、継続的に取り組む姿勢の大切さを感じました。
- ・各振興区とも熱心に取組んでおられることがよくわかりました。これから一層進めるための各地域の課題は何かもお聞きしたかったと思います。
- ・皆さんの「思い」がとてもよく伝わった発表でした。皆さんの頑張りを、それぞれの地域で、今後も継続していけることが重要だなと感じました。「地域包括ケアシステム」の根本はそこに住む住民の「思い」が大切なのだと思える報告でした。
- ・様々な地域があって、思いが通じるところも通じないところもあり、でもまちづくり（ふるさと）に対する思いは庄原市全地域一緒なんだと改めて思いました。
- ・滝口局長の言われた、すぐ成果は出ない、地道な活動、ここをしっかりと積み重ね、やるかやらないかが将来の地域、安心して暮らせる地域へつながると思います。

### ○展示コーナーを見て

- ・それぞれの地域のマニュアル、便利帳などの具体的なものがあって、参考になった。
- ・実物が見られて良かった。

### ○この研修会、生活支援体制整備事業についてのご意見ご要望

- ・地域における活動に対し、確認と反省、新発見があったように思う。
- ・同じような事業を研修会で発表されて、本当に参考になりました。
- ・「〇〇版包括ケアシステム」が広がることを楽しみにしています。
- ・課題は尽きないので、引き続き開催して頂きたい。



**この報告会は、今後も継続した開催を目指しています。**

**新たな“キラツ”と光る取り組みの報告と、多くの皆様のご参加をお待ちしています！**

庄原市 生活福祉部 高齢者福祉課 〒727-8501 庄原市中本町一丁目10番1号

TEL : 0824-73-1165 FAX : 0824-75-0245 E-mail chiikihoukatu@city.shobara.lg.jp